

2011年6月27日(月)付:山形新聞朝刊に掲載!!

イザベラ・バード
県内の足跡巡る旅

南陽から金山まで120キロ

明治時代に英女性旅行家イザベラ・バードが歩いた県内ルートの魅力を再発見する「アルカディア街道I・B俱樂部」の第1回研究会の旅が25日から1泊2日の日程で、南陽市から金山町まで約120キロのコースで行われた。バードに関係した歴史や文

化を見直し、地域資源を掘り起こそうと企画。同俱樂部を結成したNPO法人「元氣・まちネット」(矢口正武代表理事=戸沢村出身)のメンバー15人が参加し、ゆかりの場所を訪ねた。

一行は25日、南陽市の赤湯温泉街や山形市の霞城公園、東根市神町の松並木などを巡り、村山市の湯舟沢温泉に宿泊。26日は新庄市鳥越の一里塚や金山町の上台峠などを散策し、昼に最終目的地の大堰(おおぜき)公園に到着。公園内のイザベラ・バード記念碑に刻まれた「日本奥地紀行」の一節を読み、バードが旅した当時に思いをはせた。



イザベラ・バードの記念碑を訪れる参加者
|| 金山町・大堰公園

宮城県塩釜市から参加した自営業横山正子さん(57)は「旅館や飲食店などでは山形の人に『おもてなしの心』を感じた。友人を誘ってまた来たい」と話していた。